



受け継がれる職

近年、理髪店やタバコ屋などの自営業は時代の変化や後継者がいない事でどんどん商店街から無くなっていく。素晴らしい技術は知らないうちにひとつまたひとつと消えていく。

しかし、その本人達はその技術を後世に伝え、残せないという事をすんなりと受け入れ、すでに諦めている事が多い。

親から代々ほぼ身内だけに受け継がれる職は、身内以外の他者から製品に成る前の手仕事、「技術の行程」を見られる事が無い為、本人はその技術の素晴らしさに気づいていないのだ。



「残らなくても良い」から「残したい」に成って欲しい。しかし私達がどれだけ願っても、本人達の気持ちが変わらなければ、残せるものも残せない。強制しても結局同じ事。そして私達は「気持ちの解決」と言うテーマを考えた。

「諸橋製麺所のかかるた」の本質

「本当にこんな所(製麺所)の事でいいの...?」お母さんは初め私達がその技術に感動し、嬉々として機械操作を見学する姿を不思議そうに見て、何度もこう言って心配していた。

しかし、お母さんが私達の調査に立ち会い、製麺の技術を改めて見ていくにつれ、お母さんからも「こういうふうになっていったん!」「すごいよね、全然しらなかった。」そんな驚きや感動の言葉が出るようになっていった。

そして、「あなた達が楽しそうにやっているのを見ていたら、自分でも作業を覚えようかと思って思うようになったの。」カタタを作る前の最後の調査の日に言ってくれたその言葉は、この作品の本質が、かるたという完成した「物」ではなくそれを作ろうとする私達の「活動」自体にあるのだと言う事を改めて実感させた。

私達のこの「活動」が、お母さんが自分の職の素晴らしさを見つめ直し、再発見するきっかけとなった。それが「問題を解決しようとする意志や活動そのもの」の力なのではないだろうか。

「残らなくても良い」から「残したい」に成って欲しい。

それには、自分たちの技術には、誰かを笑顔にしたり、わくわくさせる事が沢山つまっているという事に気づいてもらう事。そこから生まれる誇りや、喜びが「変わりゆく未来のためのヒント」に繋がるのではないかと思う。

